

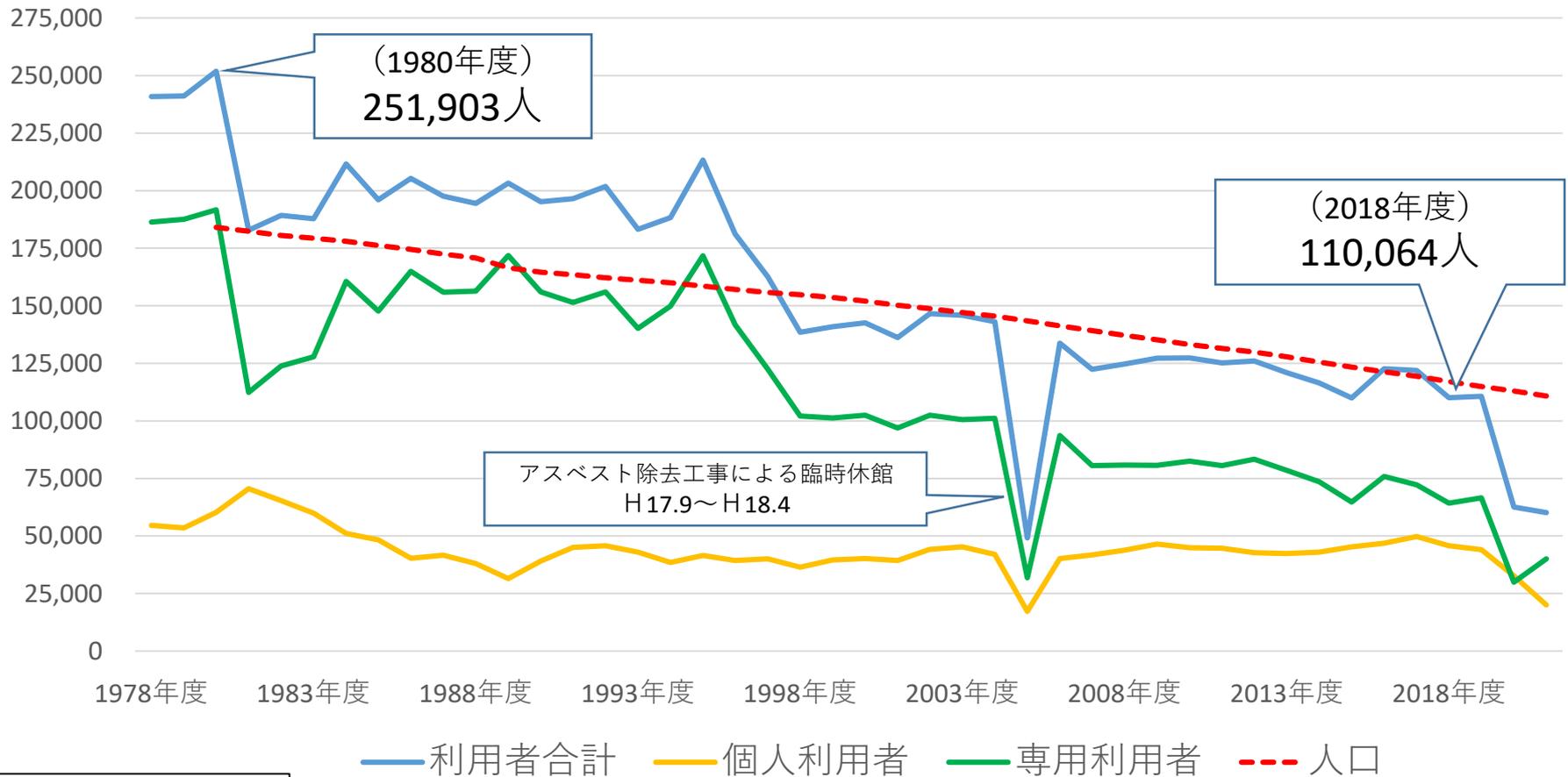
これまでの経緯と 総合体育館の現状と課題

第1回小樽市新総合体育館整備検討委員会資料

昭和37年（1962）	小樽商工会議所から市立体育館建設を求める陳情が出される。
昭和48年（1972）	小樽市総合体育館の建設が決定。
昭和49年（1974）	小樽市総合体育館完成。落成記念として国内トップレベルのバレーボール招待試合などを開催。
昭和51年（1976）	小樽駅前地区開発事業により市営室内水泳プールが開館。
昭和61年（1986）	国体の体操練習場として第4体育室と練習用ピットを設置。
平成元年（1989）	第4回国体秋季大会の体操・新体操競技大会を総合体育館で開催。
平成18年（2006）	総合体育館の運営方式が指定管理者制度となり、民間企業（当時はアンビックス）が管理。
平成19年（2007）	小樽駅前第3ビルの再開発により市営室内プールを閉鎖。その代替として、高島小学校温水プールを約5000万円の工事費で改修し開放する。
平成21年（2009）	第6次小樽市総合計画（2009～2018）に「新・市民プール整備事業」が登載。
平成27年（2015）	第2回定例会で「新小樽市室内水泳プールの早期建設方」の陳情が全会一致で採択される。
令和2年（2020）	小樽市公共施設再編計画において、体育館とプールの併設とそれぞれ単独で整備する案について検討することとなる。
令和4年（2022）	第1回定例会において、総合体育館長寿命化計画としてプール室を備えた新総合体育館の建替えを報告。「新市民水泳プールの早期建設方」などの陳情が全会一致で採択される。

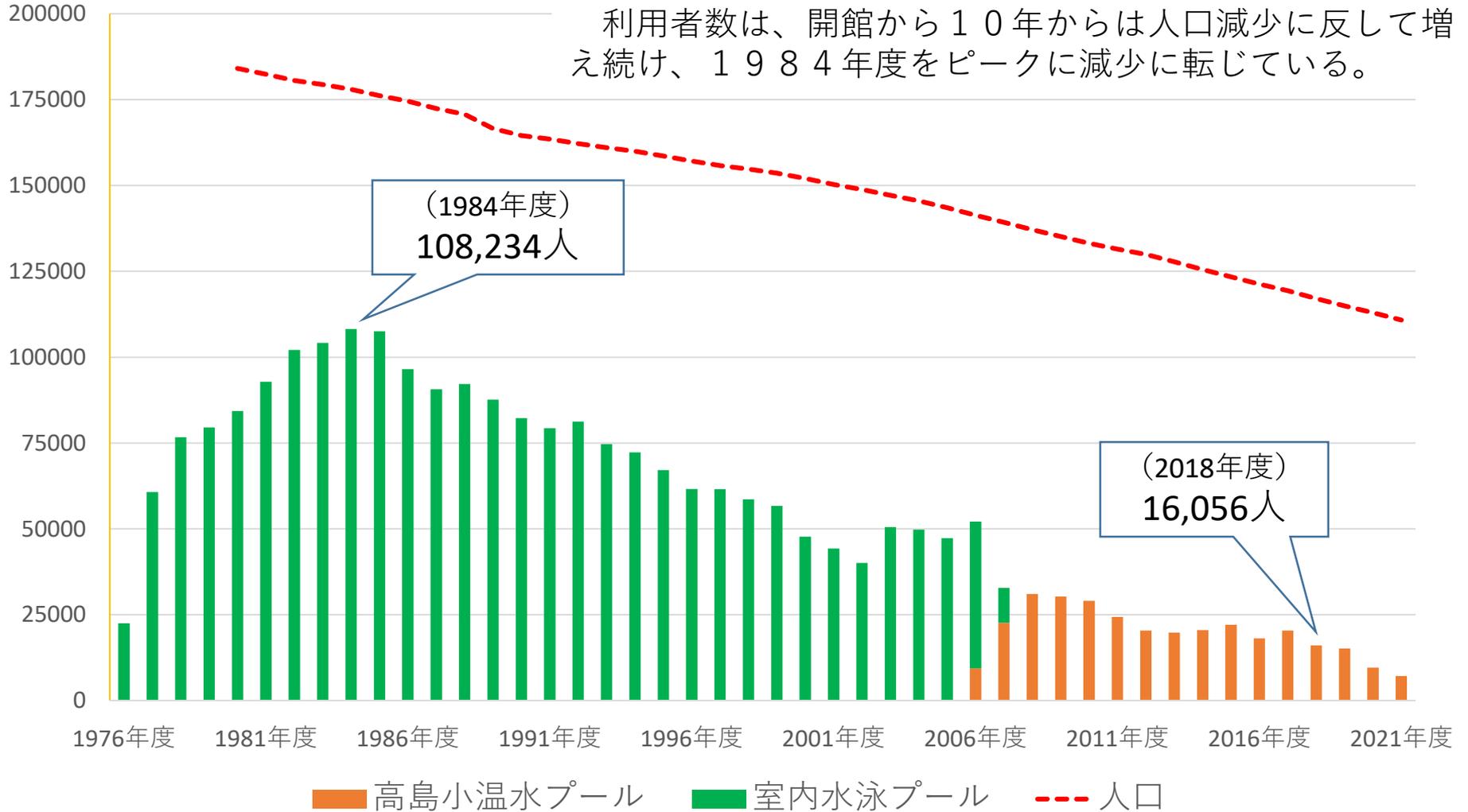
● 総合体育館の利用者数と小樽市の人口の推移

約40年間で、人口が36.4%減少したのに対し、利用者は56.3%減少しており、人口減少を上回る利用者の減少がみられる。



● 室内水泳プールの利用者数と小樽市の人口の推移

利用者数は、開館から10年からは人口減少に反して増え続け、1984年度をピークに減少に転じている。



(参考) 小樽市の教育

(1) 耐震性の問題

総合体育館は、昭和56（1981）年に改正された建築基準法の耐震基準が適用される以前に建築されていることから、新たな耐震基準に適合しているかを調査するため、平成26（2014）年度に耐震診断を実施しました。耐震性能を表す指標であるI S値（構造耐震指標）では、震度6以上の地震に耐えられる建物の基準は、本市の場合0.675とされていますが、診断の結果では地下1階を除くすべてで基準を下回っており（I S値の最低値は第4体育室の床部分で0.055）、本市において震度6強の地震が起きた場合に倒壊の恐れがあります。

方向	階	I S値
	R	0.103
X	R下	0.055
方	2階	0.374
向	1階	0.671
	B1階	0.678

方向	階	I S値
	R	0.248
Y	R下	0.155
方	2階	0.226
向	1階	0.280
	B1階	0.667

※ X方向とは建物の長辺、Y方向は建物の短辺方向のこと
 ※ R下とは第4体育室の床部分（第3体育室の天井）のこと

(2) 老朽化の課題

現総合体育館は、老朽化に伴う建物や設備の劣化が著しく、毎年、修繕費の捻出ができないまま使用し続けている現状であり、維持管理が大きな課題となっています。

(3) バリアフリー化の課題

現総合体育館は、なだらかな傾斜地に建設されていることから、アリーナや第1・第2体育室は地階に配置されています。これらを利用するためには階段を上り下りしなければならず、エレベーターも整備されていないことから、高齢者や障がい者などにとって使いづらい施設となっており、災害時の避難所として避難者を受け入れるうえでも課題となっています。

(4) その他の課題

●建設財源への対応

総合体育館建設の財源は、基本的に過疎債（充当率100%、交付税措置70%）となり、将来的には建設費の30%に当たる資金を償還する必要があります。

●災害への対応

総合体育館は、災害時に指定避難所や災害備蓄庫、非常用電源設備等を備えた防災機能が求められますが、耐震性能が低いため地震時に避難所を開設できず、現在の建物はバリアフリー化も困難です。

●省エネ・ユニバーサルデザインへの対応

地球温暖化の観点からも、省エネルギー・省資源化を積極的に推進することが求められますが、施設や設備の老朽化が著しく、省エネ設備の導入も遅れています。暖房費などの維持管理費用が年々増加する一方、利用者数や利用料収入は減少を続けており、経済性が低下していますが、現在の建物の構造上の制約等から十分な対応ができません。また、建設時に高齢者や障がい者に配慮したバリアフリー化、ユニバーサルデザインの考え方が取り入れられていないため、改修等による対応は困難です。

●駐車場不足への対応

小樽公園周辺は公共施設の集約により利便性が高い一方、施設の利用が集中する夏季は、駐車場不足が深刻になっています。

●健康寿命延伸への対応

少子高齢化が進行し生活習慣病が増加している中、健康寿命の延伸のため、スポーツ実施率の向上が課題となっています。スポーツをする習慣のない方でも、特別な器具等を使用せず、気軽に楽しめるウォーキングやジョギング、水泳など、個人が通年で運動できるような環境整備が必要です。

老朽化の状況 ～雨漏りによる壁材等の著しい劣化と応急処置



コンクリート基礎部分の破損



●アリーナ海側器具庫内の排水管の破損状況

●ステージ横器具庫2階の雨漏りの状況

●アリーナ海側通路の破損状況

老朽化の状況 ～外壁等のひび割れや劣化～



配管劣化による使用中止の応急処置



●外壁等の劣化状況

●排水管故障によるトイレ等の使用禁止の状況

計画策定の目的 ※抜粋

総合体育館の建替えには多額の費用が掛かるため、規模・機能・事業費・スケジュールなどについて取りまとめた単独の計画を策定し、市民の皆様にお示しするものです。

基本方針

●方針1 「適正配置・適正規模」

施設の状況や利用状況、類似施設の配置状況等を踏まえ、施設の継続や廃止を含めた適正配置に努めます。

地区大会・全道大会を開催できる規模を維持するとともに、大会運営が円滑にできるよう配慮しつつ、本市の将来人口推計や施設の利用状況・利便性・経済性などを踏まえ、総量の削減を基本とします。

●方針2 「災害時の安全確保」

災害時の避難所となっていますが、耐震性能が低いことから、震災時に避難所を開設できないという現在の体育館から、利用者の安全確保を目的とし、災害備蓄庫や非常用電源、トイレ水の供給など防災機能を備えた施設とします。

●方針3 「ユニバーサルデザインの推進」

本市においては高齢化率が4割を超えることから、「高齢者、障がい者の移動等の円滑化の推進に関する法律（バリアフリー法）」や「ユニバーサルデザイン2020行動計画」に基づき、全ての人にやさしいユニバーサル社会を構築するため、高齢者、障がい者だけでなく、だれもが利用しやすい公共施設のユニバーサルデザインを推進します。

小樽市総合体育館長寿命化計画より抜粋

新総合体育館の空間コンセプト

- (1) 多目的空間
- (2) 交流空間
- (3) 安心・安全空間

●方針4 「プール室の設置」

水泳や水中ウォーキングなどは、陸上の運動に比べると、浮力があるため身体への負担を減らすことができ、少子高齢化が進行している本市においては、スポーツ実施率向上及び健康寿命の延伸が期待できます。また、市内には学校プールのない小中学校があることから、水泳授業の場として活用するため、プール室を配置することとし、屋内で実施できるスポーツ機能を集約することで、市民の利便性の向上を図ります。

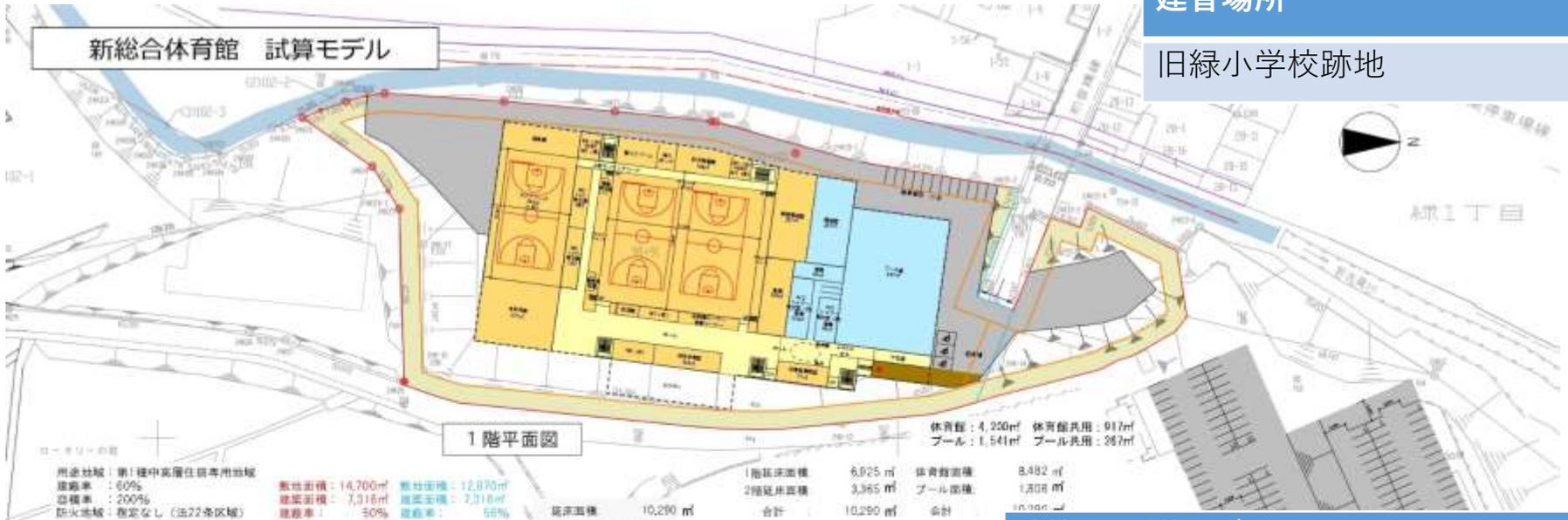
●方針5 「省エネルギー化及び再生可能エネルギーの導入」

現在の総合体育館及び旧水泳プールは重油ボイラーを使用していますが、近年主流のガスボイラーと比較して燃焼効率が悪く、二酸化炭素の排出量が多いという問題点があります。新総合体育館を建設するにあたり、省エネルギー化（高効率機器の導入など）及び再生可能エネルギー（太陽光や地熱など）の導入を検討することで、光熱水費の削減を図るとともに環境に配慮した施設にします。

建替場所

旧緑小学校跡地

新総合体育館 試算モデル



建替えの試算モデル

体育館	メインアリーナ2面 サブアリーナ1面 ※体育室1室相当を削減
プール	25m×5レーン 児童プール 歩行用プール
延床面積 10,212㎡	体育館：8,282㎡ プール：1,930㎡
本体建設費	(概算)約58億円

2階平面図

体育館：2,729㎡ 体育館共用：636㎡

	従来方式	他の方式（例：PFI方式）
R4年度	基本構想	基本構想
R5年度	基本計画	基本計画
R6年度	基本設計	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px;"> <p>PFI方式（約6年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 導入可能性調査 ● 実施方針策定 ● 事業者選定・契約 ● 設計・工事 ● 施設引渡し </div>
R7年度	実施設計	
R8年度	工事着工	
R9年度	竣工	
R10年度	解体（現体育館）	
R11年度		
R12年度		解体（現体育館）

長寿命化計画	施設の長寿命化を図る取組の指針。基本構想等の策定過程において、変更する可能性があります。
基本構想	新総合体育館の基本理念を定め、大まかな機能、規模、建設場所を決定するとともに、事業費やスケジュールなどを示します。
基本計画	新総合体育館の機能や大まかな諸室の配置を決定するとともに、施設のイメージや動線、スケジュール、事業方式などを示します。